* **NNA Asiaニュース**

2021/07/05（月）

**援助や寄付受け取りが激減　１％未満、貧困拡大に懸念**

ミャンマーで起きた政変後、政府や民間団体からの現金や食料などの援助を得られている低所得層が激減し、５月時点で１％未満だったことが米国の研究所の調査で分かった。昨年は４割以上が支援を享受していたが、金融・行政機能の混乱や物資供給の停滞が及ぼす影響が明らかになった。

* -----------------------
* **NNA Asiaニュース**

2021/07/05（月）

# 米プレッツェル店、ミャンマー撤退へ

プレッツェル・チェーンを展開する米国の「アンティ・アンズ」は１日、ミャンマーから撤退すると表明した。電子メディアのイラワジが同日伝えた。
 最大都市ヤンゴンに３店舗を保有するが、大型商業施設「ジャンクション・スクエア」内の店舗を６月30日で既に閉店。「ミャンマー・プラザ」と「ジャンクション・シティー」にある店舗の営業を８月16日までに終了する予定という。同チェーンは「事業環境の変化により、ミャンマーの店舗を閉鎖しなければならない。誠に遺憾」とコメントした。アンティ・アンズは2019年にミャンマーに進出した。地場財閥ヨマ・グループがフランチャイズで店舗を運営している。

ミャンマーでは、新型コロナウイルスや２月の政変後の影響による内需の低迷、供給の混乱、銀行の機能不全に伴う現金不足などを理由に、外国企業の事業停止や撤退が相次いでいる。６月には、台湾のバブルティー（タピオカ入り茶飲料）専門店「ＫＯＩカフェ」がミャンマーから撤退した。

**安全》累計感染者16万人を突破、陽性率は約２割**

ミャンマーの新型コロナ感染者数が３日までに、累計で16万人を突破した。

保健・スポーツ省の発表によると、同日見つかった新規感染者は1,877人で、陽性率は過去３日連続で約20％と高止まりしている。

<関連＞**NNA Asiaニュース**2020/12/11（金）

**貧困世帯、コロナ禍で４倍　１日の収入200円以下が６割**

新型コロナウイルスの感染拡大が続くミャンマーで、貧困世帯数が急増している。米国に本部を置く国際食糧政策研究所（ＩＦＰＲＩ）によれば、１日の世帯所得が1.9米ドル（約198円）に満たない貧困世帯は、９月に全体の63％に達し、１月から４倍に拡大した。